

# 『学校力向上に関する総合実践事業』 コーナー その7

今月は、「外部アドバイザーによる指導と助言」について紹介いたします。

本校では、9月29日（火）、東京大学大学院教育学研究科教授 市川 伸一氏を招き、「教えて考えさせる授業」について講演会と公開授業を行いました。本校職員も含め、総勢58名の参加者による講演会と公開授業でした。



市川教授による「教えて考えさせる授業づくり」は、

- ・「詰め込み」「教え込み」による旧タイプのわからない授業の改善
- ・教えずに考えさせる授業による新タイプのわからない授業の改善
- ・教えて考えさせる授業では「予備知識をしっかりと教えることで、理解・問題解決・定着を促す」ことを基本としています。今回の講演会は、「授業づくりのポイント」に重点をおいており、そのポイントに合わせて、公開授業を振り返ってみました。

## 授業づくりのポイントはどこにあるか

### 1 困難度査定（子どものつまずき予想）

- ・難しいところにこそ、時間と工夫を。
- ・指導書、教育書などの解説を利用。
- ・自らの学習経験や指導経験から「子どものつもりになって」想像する。

2年国語「絵を見てお話を書こう」では、登場人物の特徴を生かして書くため、拡大した挿絵を動かしながらイメージを膨らませました。



### 2 教える場面の工夫

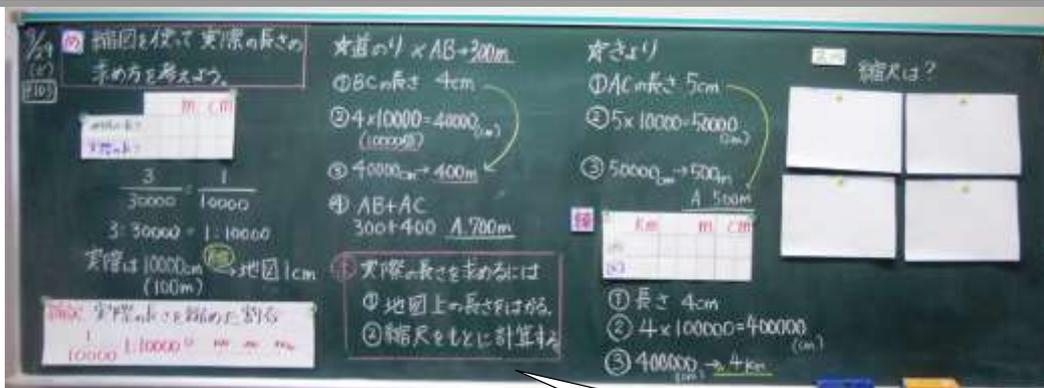
- ・重要な点をコンパクトに教える

#### 8 本時案（6/8）

過程	学習活動	指導上の留意点 (○発問, 指示・支援 ※留意点 ☆評価)
予習	・問題をノートにうつす。わかっていることと聞いていることに線をひく。 助詞に○をつける。	
教える	1 本時の問題を確認する。  ABの実際の長さ300mを3cmに縮めて表しています 校門からポストまでの実際の道のりや距離は何mですか？	○今日の問題です。みんなで読みましょう。  

6年算数「拡大図と縮図」では、「予習で問題を書かせ、わかっていることと聞かれていることに線を引かせておくこと。」「ICTを導入時に活用すること」によって、「教える場面」の時間のコンパクト化を図りました。





### 3 理解深化課題の工夫

- 課題のレパートリーを広く
- 教科書の発展問題、教育雑誌などの活用
- 教師の疑問／授業検討会で代替案を出す習慣

km、m、cmの換算表を用意して、単位換算をサポート。このまとめまで15分で終え、中盤以降の時間の確保に努めました。

理解の深化 ⑤	6 理解を深めるための問題を解く。	○スペシャル問題をときましよう。
	<p>スベ 江差町のかもめ島をこの紙に書くには縮尺をどうすればよいですか？</p> <p>※長さは約1 km</p> 	<p>※紙を4種類用意する。 10cmは必ず考えさせる。 (横：5cm/8cm/10cm/20cm)</p> <p>○グループで考えましよう。 ※プリントを配布する。 ・困っているグループへヒントを与える。(T2)</p> <p>☆【考】縮尺の意味を理解し、縮尺の出し方を考えることができる。(プリント・発言)</p> <p>○今日の学習で「わかったこと」「大事ポイント」を書きましよう。 ※ノートを提出させる。</p>

6年算数「拡大図と縮図」の理解深化で扱う問題に、子どもたちにとってなじみのある地元（江差町）の「かもめ島」を問題として取り上げ、グループごとに縮図について考えました。



教師の説明が不十分・不適切だと子どもたちは、学習活動に取り組めない。また、グループによる協同的な活動をさせず、教師が個別対応しきれずに終わると授業はうまくいかない。子ども同士が話し合い、考えを深めるためにも、前半の「教える」時間を大切にする。

今回の「授業づくりのポイント」における市川教授からのキーワードを心に留め、本校の全ての教師が、1時間1時間の授業をより大切に進め、子どもたちが互いを認め合い、高め合うことができるような授業を目指しています。